

成果のあった日頃の取組み例（中学校）

深めながら考える問題

② 真由さんは、社会科で南アジアの学習をし、インドの食文化や産業に興味をもったので、家や図書館で調べてみることにしました。

1 真由さんは、インドで食べられているカレーの種類が地域ごとに違うことに興味をもち、資料を探しました。次の資料を読んで、あとの問いに答えましょう。

資料

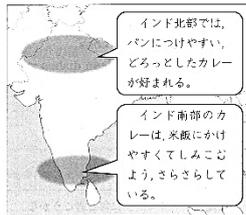
小変の文化圏であるインド北部では、ナンやチャパティ（薄焼きパン）などのパン類を主食とし、牛乳やバター、ヨーグルトなどの乳製品が使われます。

一方、米の文化圏であるインド南部では、米飯を主食としながら、ココナツミルクや野菜、豆、魚がよく食べられます。ヒンドゥー教の教えの影響で、野菜料理が豊富であることも特徴の一つでしょう。

料理の特徴が変われば、カレーのタイプも異なります。小麦が豊富に収穫できるインド北部では、カレーはパン類と合わせて食べるのが一般的です。

チャパティを中心にさまざまな種類のパンがありますが、それらはちぎってカレーをくんだまま1に入れます。したがって、カレーは必然的に、粘度が高く、パン類につけやすいものに変化していきました。

一方、インド南部では液体でさらさらなカレーが多く、辛さが際立っているのが特徴です。



（訂正版「ナレ」の巻末頁）による。一部省略がある。



インド南部で、さらさらなカレーが多いのは、インド北部と違って a からだと考えられるわ。

問 真由さんは、資料から、インド南部でさらさらなカレーが多い理由を考えています。真由さんの言葉の「a」に入る内容を、資料の言葉を用いて書きましょう。

この問題を活用して



情報を結び付けて考察する

- 社会の学習では、複数ある資料の中から適切な資料を選び、選んだ根拠や読み取った内容を言葉で他者に伝える活動を大切にしている。
- 地理的分野の授業では、地形、気候等の基礎的な情報、その他必要な資料やグラフなど、多様な資料を基に根拠を明確にしながら地域の産業の特色等について記述するといった、課題解決学習を積極的に取り入れている。
- 英語の授業では、手がかりとなる語句に気付くようヒントの示し方を工夫することで、大まかな流れを意識しながら英文を読んだり、要約したりすることができるようになった。



既習の知識を活用して説明する

- 理科の学習では、粒子のモデルと関連付けながら現象を捉えることを大切にすることにより、科学的な事物、現象を具体的に説明できるようになり、実際には見えない粒子の姿をイメージできるようになった。
- 理科の水溶液の学習では、対話的に学習を進めていくことで、生徒たちは互いに確認したり推測したりしながら科学的な概念を形成していくことができた。

この問題を活用して

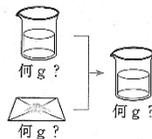
深めながら考える問題

道子さんは、下線部②について、次のように考えています。



道子

ナトリウムが0.2 g/Lとは、食塩水ならどのくらいの質量パーセント濃度になるといことかな。
食塩水に置き換えて考えるために、溶質の質量など、はっきりしないことを係員さんに聞いてみよう。



問② 下線部②について、食塩水の質量パーセント濃度で表すための式とその答えを、次の教えてもらったことをもとに書きましょう。

教えてもらったこと

- 0.2 g/Lとは、溶液1リットルあたりに溶質が0.2グラムとけているということである。
- 今回の場合、溶液に対する溶質の質量が小さいので、溶液1 Lの質量を1000 gとしてよい。
- 食塩1.0 gにはナトリウムが約0.4 g含まれているので、水にナトリウムを0.2 gとかすには、食塩の場合、0.5 g必要である。

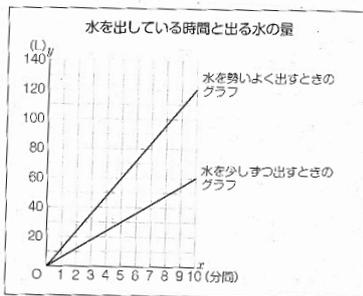
組み立てながら考える問題

3 太朗さんたちは、安全な水と自分たちの生活との関わりについて話し合っています。次の会話3を読んで、あとの問いに答えましょう。

会話3

太朗：世界中で安全な水を使えるようになるためには、どうすればいいかな。
 優矢：安全な水にすることは簡単ではないのだから、水を使うときは節水を心がけることが大事だね。
 花子：私の家では、食器を洗うときに水を使いすぎないように、水を少しずつ出して使っているよ。
 遥子：水を勢いよく出して洗うのと、どれくらい違うのかな。
 太朗：節水についての資料を見つけたよ。この資料を使って、食器を洗うときに水を出している時間を x 分間としたときの出る水の量を y リットルとして、水を勢いよく出すときと、水を少しずつ出すときの、 x と y の関係を比例していると考えて、それぞれグラフに表したよ。

太朗さんのグラフ



問 5分間で節水できる量は、太朗さんのグラフをもとに求めることができます。その方法を説明しましょう。ただし、実際に節水できる量を求める必要はありません。



太朗

自分のこととして考えて、できることを実行したいね。身近な人たちはもちろん、世界中の人たちと一緒に、目標6の達成に向けて何ができるかな。

学力調査Ⅱ 1 3



他教科等で活用・発揮する

- 総合的な学習の時間において、SDGsを意識した持続可能な地域づくりに関する学習を進めることで、よりよい生活づくりに関する意識を高めることができた。
- 自校の学力向上アクションプランに資料の活用を位置付け、各教科等において授業づくりを工夫した。
- 「なぜそうなるのか」「どうやって求めたのか」など、言葉で伝え合う活動を全ての教科で大切にしている。

この問題を活用する

その他

「調査問題」を活用した例

- 定期テストは、一問一答だけでなく、資料からわかることを説明をするなど、思考力を問う形式で出題している。
- 小学校での既習事項を生かし、創造的思考を育てる授業に取り組んでいる。

「リーフレット」の活用事例

- 単元や一時間の授業の前に、目指すべき姿（単元の目標）を示してから授業に取り組んだ。生徒自身が、単元後の姿をイメージすることにつながった。

「分析と活用」の活用事例

- 国語の学習で、説明的文章の構成（序論・本論・結論）や論理の展開（事実・根拠・意見）を意識できるよう授業に取り組んだ。生徒は根拠をもとに自分の意見を相手に伝えられるように文章を書いたり、相手が伝えたいことを深く読み取ったりすることができるようになった。